

口蓋裂にともなうことばの問題・構音障害

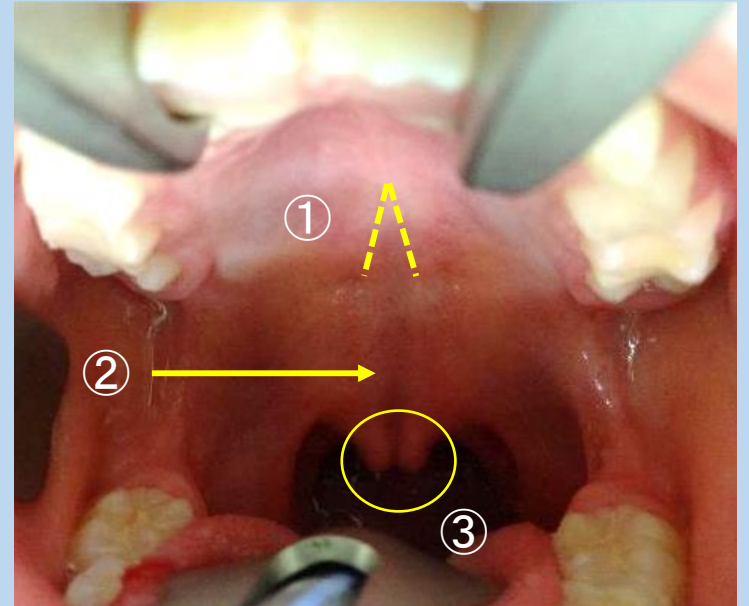
口蓋裂手術は1歳から1歳半ごろに行います。この手術後もことばに問題が生じることがあり、これを口蓋裂言語と呼んでいます。

種々の病態がありますので、一般的な外来診察だけでなく、口蓋裂を専門とする言語聴覚士による詳細なことばの評価、レントゲン検査、電子スコープを用いた内視鏡検査などを総合して、問題の原因をつきとめます。

治療は、まず言語治療や口腔内の装具（言語補助装置）を使った**保存的治療から開始**します。こういった治療で改善が得られなかった場合のみ手術治療を行います。手術は種々の方法の中からその患者さんの病態に一番適した方法を選択して施行しています。

また、口蓋裂がないように見えてもことばの問題が生じる疾患（先天性鼻咽腔閉鎖不全症、粘膜下口蓋裂（右上図）など）もあります。

ことばはコミュニケーションを図る上での重要な道具です。気になることがありましたら、ご相談下さい。



粘膜下口蓋裂

- ①口蓋骨のまん中がV字に欠けている、
- ②口蓋粘膜のまん中が薄い、
- ③口蓋垂裂（ノチンコが割れている）